

台風・大雨のとき 1



自分の住む町の地形を知り、 事前に情報を集める

Check! 11.12

岐阜市には長良川をはじめとする多くの河川が存在し、特に、長良川は普段の水位が市街地よりも高いため、支流の水を排水できず起こる浸水が多いという特徴があります。こうした地形的な要因もあり、岐阜市は昔から水害に悩まされてきました。大雨が降ったとき、はん濫しそうな川がどこにあるのか、ハザードマップを使って確認しておきましょう。

また、台風が近づいているときには正しい情報を入手することで、あらかじめ避難したり、被害を最小限に抑える対策をすることができます。気象庁が発表する気象情報や防災行政無線等から情報を集め、万全の対策をとるようにしましょう。 → ハザードマップ P54

危険が迫る前に早めの避難

Check! 14

避難指示などの避難に関する情報は、各世帯の家族構成や土地の地形、降雨状況が異なるため、すべての世帯に最適なタイミングで発令することが困難です。

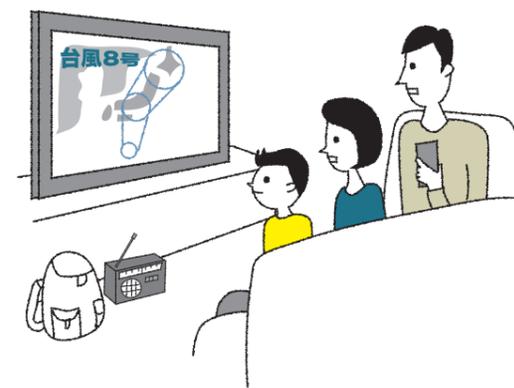
雨の降り方によっては避難に関する情報が出されるよりも前に、自主的に避難することが必要です。「危険を察知して自分の命を守る行動をとる」という危険を判断し行動する能力を身に付けることが大切です。

避難施設に行くことだけが避難とは限りません。安全な親せき・知人宅への立退き避難など、分散避難についても検討しましょう。

→ 避難の準備 P31



あわてて外にでない



避難する前に、屋外の状況や自分がいる場所の地形をもう一度確認しましょう。決壊しそうな河川が近くにあったり、すでに街中に水があふれている場合は外に出るのはかえって危ない場合があります。少しでも危険を感じたら無理して避難場所に向かうのではなく、自宅の2階など家の中の安全な場所に移動しましょう。

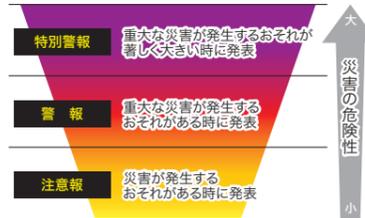
→ 避難の準備 P31

台風・大雨のとき 2

雨に関する情報

気象情報に注意する

水害は、突然発生するものではなく、大雨のときに、降った雨が川からあふれたり低い場所にたまって排水できなくなることにより発生することがほとんどです。特に台風は、到達時期や規模をある程度予測することができます。テレビ・ラジオ・インターネットを利用して防災気象情報を集めましょう。



雨の強さについて

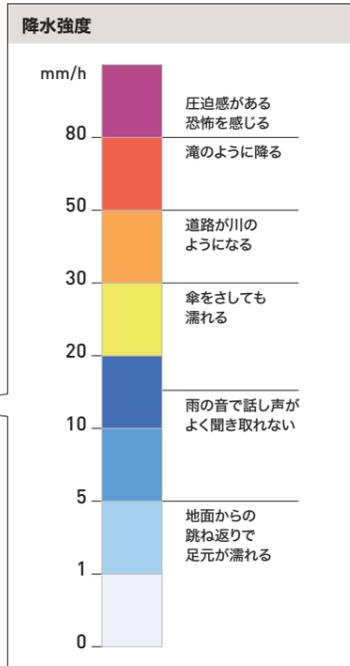
雨雲レーダーと雨の強さ

雨雲レーダー情報は、インターネットやスマートフォンアプリ等にて、確認することができます。実況値や予測雨量を確認できるため、災害状況の確認、予測に活用することができます。

気象庁 | ナウキャスト
<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>



出典：気象庁ホームページ
<https://www.jma.go.jp/bosai/nowc/>
 (加工して作成)



局地的な大雨(ゲリラ豪雨)

近年頻発する局地的な大雨(ゲリラ豪雨)については予測するのは困難です。短時間に刻々と状況が変わるため、こまめに情報を収集しましょう。また日ごろから、雨どいや家の周りの側溝を掃除しておく等の対策を心掛けましょう。

記録的短時間大雨情報とは

大雨警報を發表中に、数年に一度しか起こらないような猛烈な雨を観測または解析した場合には、気象庁から、大雨の発生した場所や時刻、雨量が発表されます。この情報は、ここ数年で経験したことのないような大雨が短時間に集中的に降ったことを示し、重大な災害の発生する可能性が高まっていることを周知するものです。発表された場合には一層の警戒が必要になります。

線状降水帯

数時間にわたって同じ場所を通過することで作り出される、強い降水をともなう雨域をいいます。毎年のように線状降水帯による大雨が発生し、数多くの災害が生じています。線状降水帯による大雨が発生している場合は、災害発生に備え、危機感を高めましょう。

顕著な大雨に関する情報とは

大雨による災害発生の危険度が急激に高まっている中で、線状の降水帯により非常に激しい雨が同じ場所で降り続けている状況を「線状降水帯」というキーワードを使って解説する情報です。なおかつ、土砂災害や洪水災害の危険度が、急激に高まってきた場合に、緊急的に発表する情報です。

事前の備え

台風や大雨が近づいてきたら...

台風は、進路や接近時間をある程度予測することができます。テレビ・ラジオ・インターネットを利用して防災気象情報を集めましょう。被害にあう前に適切な対策、早めの避難をすることが大切です。



懐中電灯、携帯ラジオを準備

非常持出品、貴重品をまとめる

→ 非常持出品 P32

飲料水の確保

浸水の恐れがある場合は家財道具、生活用品(食料品、衣類、寝具)を2階以上の高い場所へ移動させる

家の外に飛ばされそうなものがあつたら固定または家の中に入れる → 家の外の安全対策 P35

窓ガラスの補強

要配慮者は安全な場所に早めに避難

最寄りの指定緊急避難場所、指定避難所の確認



それぞれの地区には、指定緊急避難場所が指定されています。台風が接近し大雨による被害が予想される場合には、この指定緊急避難場所に避難し、安全を確保してください。ただし、避難場所へ行くのがかえって危険な場合は無理して外へ出ず、次ページに示す屋内安全確保をしましょう。

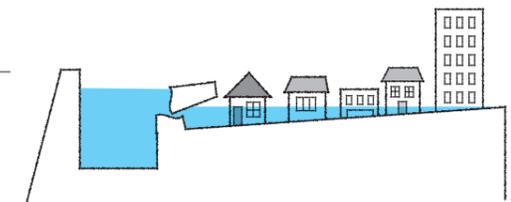
→ 避難場所の確認 P32

→ ハザードマップ P54

外水はん濫(洪水)と内水はん濫とは

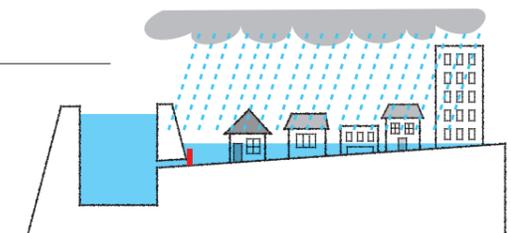
外水はん濫

大雨によって河川水位が高くなると、堤防を超えて水があふれたり、堤防が壊れたりすることがあります。このようなことが原因で生じるはん濫のことを「外水はん濫」といいます。



内水はん濫

街に降った雨は、普段は側溝などを通じて河川に放出されます。しかし最近のゲリラ豪雨のような短時間に局地的な大雨が降ると、排水機能が追いつかなかつたり、河川の水位が上昇して適切に排水できないことがあります。このように街に降った雨が河川にたどり着く前にあふれることを「内水はん濫」といいます。



台風・大雨のとき 3

避難の時の注意点

<p>何よりも人命が第一です</p> <p>「あぶない」と感じたら、浸水が始まらないうちに自ら進んで避難しましょう。</p> 	<p>速やかに避難しましょう</p> <p>避難指示などは、危険が迫った時に出されますので、速やかに避難しましょう。避難の際には、市役所などの指示に従いましょう。</p> 	<p>みんなで助けあって避難を</p> <p>避難するときは、隣近所で声をかけて、お年寄りや障がいのある方、子どもを優先するようみんなで協力しましょう。</p> 
<p>2人以上で安全な道を歩きましょう</p> <p>避難するときに浸水管があった場合は、側溝や水路に十分注意しましょう。また、長い棒などを杖代わりにして、安全を確認しながら歩きましょう。</p> 	<p>水深や流れに注意しましょう</p> <p>大人が歩ける水深は、約50cmが目安です。水の流れが速いときは、50cm以下でも歩行するのは危険です。なるべく、水が浸水している地域には近付かないようにしましょう。</p> 	<p>車での避難は控えましょう</p> <p>車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので、できるだけ徒歩で避難しましょう。</p> 

! 履きなれた運動靴を履いて避難しましょう。濡れてしまわないようにと長靴を履いてはいけません。長靴に水がはいると身動きが取れなくなってしまいます。

立退き避難と屋内安全確保 **Check! 13**

危険が近づいたらすぐに安全な避難所等に避難することが大切です(立退き避難)。しかし、避難している最中に被害にあう可能性もあります。

下記の項目の一つでも当てはまる場合は無理に外に出ず、可能な限り想定浸水深より高いところに避難し、命を守る最低限の行動をとりましょう(屋内安全確保)。

➡ 命を守る最低限の行動 P31



避難する前に以下の項目をチェックしてみましょう。

- 夜間で避難路上の危険箇所がわかりにくい。 避難路に崩れそうな斜面がある。
- 避難所までにひざ上以上(50cm以上)に浸水しているところを通らなければいけない。
- 水深は浅い(20cm程度)が、水の流れがはやい。
- 避難路に蓋のない用水路等があり、位置がわからない。

増水・浸水時に危険な場所

河川敷・用水路・ため池の周辺

- 急な増水 ● 堤防の決壊 ● 農業用ため池の越水・決壊
- 自分のいる場所で雨が降っていても、河川の上流での大雨により被害を受ける可能性がある。

対処法 ● 川から離れる。 ● 高いところに避難する。

ため池の場所や浸水想定区域は市農地整備課ホームページ (<https://www.city.gifu.lg.jp/info/soshiki/1010473/1010477.html>) でご確認ください。



運転中

- 激しい雨で前が見えなくなる。

対処法 ● 視界が悪い場合は急停車せず、ゆっくり減速する。

- 路面が冠水してエンジンが停止する。※60~70cmの浸水で車は浮いてしまいます。 ※マフラーが水没するとエンジンが停止してしまいます。

対処法 ● エンジンがとまっても、エンジン保護、感電防止のため再始動しない。

- 水圧でドアが開かなくなる。

対処法 ● 慌てずに窓を割って脱出する。(ハンマー等を車に常備)

アンダーパス

- 冠水により車が水没する。

対処法 ● 平常時から危険箇所を把握し、増水時には通行しない。

地下駐車場

- 地上で起こっている災害に気づきにくい。 ● 水圧でドアが開かなくなる。 ● 水が流れ込む。

対処法 ● 気象情報に注意し大雨時には極力利用を避ける。

簡易的な土のう・水のうのつくりかた

ゴミ袋を利用

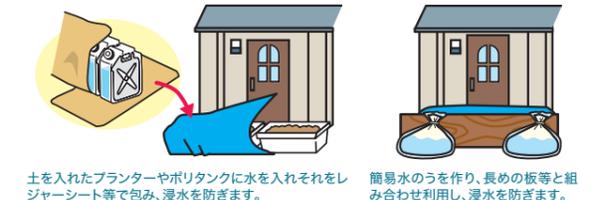
45ℓ程度の容量のゴミ袋を二重にして、半分程度の水を入れ、すき間なく並べる。段ボールに入れてつなげれば強度が増し、積み重ねることもできます。

- 簡易水のうの作り方



プランターを利用

土の入ったプランターを縦長に並べ、レジャーシートを巻きつけて補強する。プランターの代わりに水を入れたポリ容器や、中に土を入れ重くしたビールケースなども利用できます。



ここで紹介している簡易的な工法は、ご家庭にある物を使って水の浸水を防ぐ方法です。あくまでも水深の浅い段階でのものです。

被災後の対応

浸水後も街には危険があふれています。以下のことに注意しながら復旧活動を行いましょう。

- 浸水の被害にあったら消毒を念入りにする。 ● 家の中は風通しをよくして乾燥させる。
- 水道水を煮沸して使用する、こまめに手の消毒をするなど、衛生面に注意する。